第 1 時　政治と権力

p.7〜8　知識を確かめて活動に使う　教師用解答

年　組　番　氏名 _____

A 政治とその根拠

利害を調整し共通の決定をつくる働きが（1 **政治**　　）。生徒会にも見られるが、通常は国家や地方公共団体の公共的な決定と実施を指す。

決定に従わせる強制力が（2 **政治権力**）。近代の（3 **国家**　　）は、法に基づく物理的な強制力を領域内で独占する。

支配が正当と認められる根拠が（4 **正統性**　）。国王の権力を神から説明するのが（5 **王権神授説**）である。

人が生まれながらもつ権利を重視する（6 **自然権思想**）を背景に、人々の意思や契約から国家を説明する（7 **社会契約説**）が生まれた。

B 社会契約説の共通点と違い

（8 **ホッブズ**）は『（9 **リヴァイアサン**）』で、国家のない自然状態を**「万人の万人に対する闘争」**と捉え、平和と自己保存のための国家を説いた。

（10 **ロック**　）は自然権を保障する政府を重視し、権力の濫用に対する（11 **抵抗権**　）（革命権）を認めた。

（12 **ルソー**　）は、共通の利益を目指す一般意志に基づく（13 **人民主権論**）を説いた。

自然権は生まれながらにもつ権利、**一般意志**は共通の利益を目指す意志。社会契約説は実際の契約書の発見を述べる説ではなく、国家の根拠を考える理論である。

C 支配が認められる根拠を比べる

ウェーバーによる分類。法に基づく職務の権限と、個人の人気を区別しよう。

型	認められる根拠
伝統的支配	古くからの習慣や伝統
カリスマ的支配	人物の特別な資質への信頼
合法的支配	定められた規則と職務の権限

ペア確認　教科書を閉じ、「強制力があれば正当と言えるか」を、政治権力と正統性の二語で説明しよう。分からなければ A へ戻る。

第 1 時　判断をつくり直す

個人判断 → 対話 → 追加情報 → 再判断　第 1 時の活動用

意見が対立するとき、誰が何を根拠に決めればよいだろう。

架空の市営広場に使える追加予算は 100 万円。基本的な安全対策は済んでいる。A は小型ステージ、B は日陰とベンチ、C は通行しやすい動線への改良。どの案も 100 万円かかり、今回は一つを選ぶ。

1 最初の個人判断

選ぶ案と決め方、その理由を一言で書こう。

例　B を選ぶ。よく使う人の希望を聞いて多数決で決める。

2 役割を持って初案をつくる

役割はカードで確認。一人 30 秒ずつ理由を出す。役割は毎時間交代し、全員が自分の言葉で記入する。

検討すること	班で考えたことを自分の言葉で記入
初案と理由	例　B。休憩の需要を重視。ただし投票する人の範囲を確認する。
残った反対意見	例　通行の利便性も必要。B で十分か調べる。

3 追加情報を受けて見直す

教師が配る追加情報を読んでから記入する。

項目	根拠と修正
見直す根拠	例　投票の対象に通行者がいない。理由を公表しない。
見直した判断と理由	例　通行者にも意見を聞く。決定方法と理由を公開する。

隣班から受けた質問と自分の対応を記入。直した箇所に下線を引く。

質問：通行者の意見は？　対応：通行者にも聞く手続を追加。

4 最後は個人で説明する

政治・政治権力・正統性の三語と追加情報を使い、問いに 80〜120 字で回答。見直した理由も示す。

政治は利害を調整する。政治権力で決定を実行できても、正統性が得られるとは限らない。広場の案は通行者にも意見を聞き、決定の手続と理由を示す。反対意見も記録し、判断の根拠を検討できるようにする。

□用語を正しく使用　□追加情報を根拠に使用　□相手の意見を検討
最初と比べて　□変えた　□条件を足した　□理由を補って維持した

第 2 時　法とルール

p.8〜9　知識を確かめて活動に使う　教師用解答

年　組　番　氏名 _____

A 法は人と権力の両方に関わる

行動の基準となる法・道徳・慣習などが（1 **社会規範**）。法は国家による（2 **強制**　　）（制裁）を伴う点に特徴がある。

法は政治権力を支える根拠になるとともに、その限界を定める。道徳と内容が重なる場合もあるが、道徳違反がすべて法違反になるわけではない。

文章の形で制定された法が（3 **制定法**　）（**成文法**）。国家の基本法が（4 **憲法**　　）。国会が制定する法が（5 **法律**　　）である。

B 法の分類を整理する

国家などの組織・公的関係を扱う（6 **公法**　　）、私人間の関係を扱う（7 **私法**　　）、私人間の関係を公正のために調整する（8 **社会法**　）がある。

立法によって制定された条文の形式をとらない法は（9 **不文法**　）。慣習法や判例法が挙げられる。

分類の軸	語句と意味
対象や役割	公法：憲法・刑法など／私法：民法など／社会法：労働法など
形式	成文法：制定した文章の形／不文法：その形式をとらない
成り立ち	自然法：普遍的に妥当すると考える法／実定法：現実の法
適用される範囲	国内法：国家内部／国際法：国家間などの国際的関係
内容と手続	実体法：権利・義務等の内容／手続法：実現する手続

慣習法は慣習が法としての効力を得たもの。判例法は裁判上の判断の積み重ねから形成される法。判決文が文章でも、立法による成文法とは区別する。

C 法の機能と紛争の解決

法は人々の（10 **権利**　　）と（11 **義務**　　）を定め、利益の保護、秩序の維持、行動の方向付け、紛争解決の基準として働く。

認定した事実に法を適用して判断する手続の一つが（12 **裁判**　　）。実力で一方的に権利を実現することを原則として認めない（13 **自力救済の禁止**）を前提に、裁判を受ける権利が保障される。

司法権と裁判官の職権の独立は公正な裁判を支える。話合いや裁判外の手続による紛争解決もある。

ペア確認　「法律は罰を与えるためだけにある」という説明を、C を使って直そう。

第 2 時　判断をつくり直す

個人判断 → 対話 → 追加情報 → 再判断　第 2 時の活動用

よいルールのために、法はどのように働くのだろう。

同じ広場で土曜の音楽発表を計画している。A 案は 16〜19 時なら広場のどこでも演奏可。B 案は静かさと通行を守るため終日演奏禁止。市が利用ルールを検討する。どちらをどう修正するか。

1 最初の個人判断

A・B のどちらをどう直したいか、一言で書こう。

例　A を基に、場所と終了時刻を決めて通路を空ける。

2 役割を持って初案をつくる

役割はカードで確認。一人 30 秒ずつ理由を出す。役割は毎時間交代し、全員が自分の言葉で記入する。

検討すること	班で考えたことを自分の言葉で記入
初案と理由	例　指定場所で短時間の演奏。通路を空け、音の影響を調べる。
残った反対意見	例　近隣の住民は短時間でも音が気になる。

3 追加情報を受けて見直す

教師が配る追加情報を読んでから記入する。

項目	根拠と修正
見直す根拠	例　「迷惑」の基準が曖昧。反対意見による利用排除。
見直した判断と理由	例　条件を具体化し、判断理由の説明と相談の窓口を設ける。

隣班から受けた質問と自分の対応を記入。直した箇所に下線を引く。

質問：迷惑の基準は？　対応：音・場所・時間の条件を具体化。

4 最後は個人で説明する

権利・義務・法の三語と追加情報を使い、問いに 80〜120 字で回答。見直した理由も示す。

法は権利と義務を定め、行政が判断するときの基準や限界になる。広場では通路を確保し、音や時間の基準を明確にして双方の権利を調整する。異議のある人が理由を尋ねたり相談したりできる仕組みも必要だ。

□用語を正しく使用　□追加情報を根拠に使用　□相手の意見を検討
最初と比べて　□変えた　□条件を足した　□理由を補って維持した

第 3 時　契約と権利と義務

p.10　知識を確かめて活動に使う　教師用解答

年　組　番　氏名 _____

A 私法の基本原則と限界

私人が自分の法律関係を自分の意思で決める考え方を（1 **私的自治の原則**）という。
ただし（2 **公序良俗**）に反する法律行為は無効となる。

原則	意味と注意点
契約自由の原則	法令の制限内で、契約するか、内容をどうするかなどを決める。
権利能力平等の原則	権利・義務の主体となる資格についての平等。
所有権絶対の原則	所有物を使用・収益・処分できる。法令による制限もある。
過失責任の原則	不法行為では原則として故意・過失が責任の要件。例外もある。

B 契約の成立と権利の対応

合意により成立し、法的拘束力をもつ約束が（3 **契約**　　）。原則として口頭でも成立する。
（4 **契約自由の原則**）は、どんな内容も有効にするものではない。

特定の相手に一定の行為を求める権利が（5 **債権**　　）。物を使用・収益・処分する（6 **所有権**　）は、物を直接支配する（7 **物権**　　）の一つである。

相手に一定の行為をする義務が（8 **債務**　　）。債権をもつ側は債権者、対応する債務を負う側は債務者となる。

売買では、売り手は代金を求められる一方、物を引き渡す義務も負う。「誰もが常に債権者か債務者の片方だけ」とは限らない。

C 約束が守られないときに区別する

約束どおり実行することが履行。債務が内容どおりに実行されないことが（9 **債務不履行**）。条件に応じ、履行の請求・解除・損害賠償などが問題となる。

詐欺など法律上の原因がある場合の（10 **取り消し**）は、権限のある人の意思表示による。法律行為の効力が認められないことが（11 **無効**　　）である。

無効は初めから効力がない。取り消せる行為は、取り消されるまでは有効で、取り消されると初めから無効と扱われる。単なる気変わりで必ず取り消せるわけではない。

ペア確認　代金の支払いが遅れた場合と、詐欺によって契約した場合では、どこが違うだろう。

第 3 時　判断をつくり直す

個人判断 → 対話 → 追加情報 → 再判断　第 3 時の活動用

合意した約束なら、どんな契約でも認められるだろうか。

広場のイベントに向け、成人の X が成人の Y から中古スピーカーを買う。価格は 5,000 円、受渡しは金曜 17 時。口頭で合意したが、状態の確認方法、支払時期、故障や遅れの扱いは決めていない。

1 最初の個人判断

この契約は成立したと思うか。足りない条件も書こう。

例　口頭でも成立する。支払時期と状態の確認方法が必要。

2 役割を持って初案をつくる

役割はカードで確認。一人 30 秒ずつ理由を出す。役割は毎時間交代し、全員が自分の言葉で記入する。

行為	債権者	債務者
代金を支払う	売り手	買い手
物を引き渡す	買い手	売り手

不足している条件と理由を一つ決めよう。

例　引渡し前に動作を一緒に確認する。状態の認識のずれを減らすため。

3 追加情報を受けて見直す

教師が配る追加情報を読んでから記入する。

項目	根拠と修正
見直す根拠	例　故障を隠す説明を買い手が信じ、そのために合意した。
見直した判断と理由	例　詐欺による取り消しを検討する。単なる気変わりや約束の遅れとは違う。

隣班から受けた質問と自分の対応を記入。直した箇所に下線を引く。

質問：気変わりと同じ？　対応：うそを信じた合意だと明記。

4 最後は個人で説明する

契約自由の原則・債権・債務の三語と追加情報を使い、問いに 80〜120 字で回答。見直した理由も示す。

契約自由の原則は、どんな合意も有効にするものではない。引渡しを求める買い手の債権に、売り手の債務が対応する。今回は故障を隠す説明を信じて合意したため、詐欺による取り消しを検討でき、合意だけで否定はできない。

□用語を正しく使用　□追加情報を根拠に使用　□相手の意見を検討
最初と比べて　□変えた　□条件を足した　□理由を補って維持した